

2001年(平成13年)3月20日

アイヌタイムズ第16号日本語版

先住民族たちがエスペラントで会話する

先住民族が通訳なしでエスペラントでお互いに話し合いをしようとしています。

オランダ国に、とある学校があり、そこでは英語、ドイツ語、エスペラント語を教えています。1998年5月に、一人の先住民族である人が、その学校の経営者の所に行きました。彼は中央アメリカのコスタリカ国から来たと言います。学校の経営者の名前は、ベシー・シェディーです。

その先住民族は、以下のように言いました：「他の先住民族と私は会話したいのだが、ちゃん

と言うこともできなくて困っているんですよ。」

その経営者はその人の言ったことを聞いて、次のように考えました。「私の学校で、お金なしでエスペラント語やインターネットを彼らに教えるといいのでは。それによって先住民族たちが会話できるだろう。」

そして、1998年10月にアメリカで世界先住民族会議があった時に、その経営者は、「先住民族どおしで直接に色々な話しをしましょう。」と言いました。

そうして、1999年9月に、その経営者の学

校で。その人たちは、エスペラントとインターネットを教わりました。

そこに、先住民族が22人で参加しました。その人たちは次の国から来ました；ニューギニア、モロッコ、ルワンダ、ブルキナファソ、ロシア、アラスカ、コスタリカ（中米）、グアテマラ（中米）、チリ、インド、... いろいろな国です。

彼らはこの学校で21日ほど過ぎるまで習いました。

最初の7日間には、朝から晩まで、エスペラントを勉強しました。

その次の7日間には、インターネット上で、エスペラントを使って、ホームページを作り、そこに自分たちのことを書きました。

最後の7日間には、先住民族の人たちは、そのホームページの中でエスペラント語で会話したりもした、学校で一緒に踊ったり歌ったりもしたのです。

この人たちの多くは、これからもエスペラン

トで会話したいなと言っています。

1999年11月末から、先住民族が12人で、再びその学校に行き、エスペラント語やインターネットを教わりました。その経営者は、250ほどの先住民族が来るといいなと言いました。

英語や他の言葉で会話するならば、ちゃんとできる人もいますが、できない人もいますでしょう。エスペラントなら、最初からみんなと一緒に勉強することができるので素晴らしいと私は思います。

エスペラントを話す人は、世界中にいます。私は、エスペラントを勉強してから、その人たちと知り合いになることができたので、とてもうれしく思います。

もっとエスペラントのことを聞きたいならば、私たちのところに言ってください。

hokkaido_esp_ligo@yahoo.co.jp 北海道エスペラント連盟・事務局 TEL/FAX +81-11-717-4189

〔横山 裕之〕沙流・千歳

アイヌタイムズ第16号日本語版 (季刊)

発行所	アイヌ語ペンクラブ
	〒055-0101 沙流郡平取町二風谷 80-25
発行責任者	野本 久栄
編集責任者	浜田 隆史
日本語版担当	稲垣 克彦